

東京バッハ合唱団 月報

[第 539 号] 2007 年 5 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101 Tel : 03-3290-5731 Fax : 03-3290-5732
E-mail : bachchortokyo@aol.com http : //www2.tky.3web.ne.jp/~bach/chor/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No.539
May 2007

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

創立 45 周年の決意

「バッハ・カンタータ 50 曲選」負債残額、完済にご協力を

大村 恵美子

これまで機会あるごとに公表してきたことですが、2007 年に《マタイ受難曲》をもって創立 45 周年を記念し、合唱団の歴史の大きな一区切りとする、ということでこの年を迎え、2 年間にわたる周到な準備を経て、3 月 21 日の演奏会で、その区切りへの思いはみごとに結実しました。10 年前には、主宰者たる私の体力・気力も、もうこのあたりで限界に近づき、掉尾を《マタイ》に期して、思い残すことなく東京バッハ合唱団を終えようという予測でした。

ところが、これもすでに何度もお伝えしたように、その前に、これまで演奏してきた記録を、訳詞つきの楽譜と演奏録音の CD にまとめ、形として残したい、という要望があり、その実現に踏み切りました。この、楽譜と CD の発行、2007 年《マタイ受難曲》の再演、という今までになく大きな目標が立てられて以来、合唱団は活気づき、真剣味がぐっと増してきたのです。

「バッハ・カンタータ 50 曲選」の出版事業も《マタイ》公演も、持てる力を総結集して成功を勝ち得たという確かな実感があります。またこれらは、新聞や雑誌でもとり上げられて、団員数が 100 名となり、創立以来の安定した運営ができるようになりました。この勢いに、2007 年で合唱団の存在にピリオドをうつという案は、早々に撤回され、主宰者の意志のつづくかぎり、このまま存続させようということになりました。

以上が、創立 45 周年に入った現在の状況です。《マタイ》を歌う目的で急増した団員数が、その後また元に復してしまうのではないかという懸念も、いまのところ、それほど減ってはいないし、入団する人もつづきそうです。

これでは良いことづくめで、何も立ち向かうべき問題はないのかというと、実はここに大きな問題が生じています。

経営的には、合唱団、演奏会、後援会、すべてが赤字から脱して、いくばくかの黒字に転じたのは、やっと昨年半ばのことでした。これは、今後の努力によって維持されなければならないし、その可能性は十分あります。

しかし、「バッハ・カンタータ 50 曲選」にかかった支出約 3000 万円のうち、資金の返済と未払いの合計が約 1000 万残っています。これを始めた当時は、まったく未知数の事業で、主宰者がひとりで責任をとって始めるのはなかったのですが、広く呼びかけて、債券の形で資金をつくり、そのお蔭で、予定より早いくらい順調に、楽譜も CD も完結しました。しかし、利息をつけてお返しし、一部の方々からはご寄付としていただきましたが、大口の債券を購入してくださった数人の方々には、手つかずに、期日を越えた現在も、返済を待っていただいているのです。

このことが、私を大きく圧迫しています。楽譜・CD の売り上げが、これまでのテンポで進めば、収支つぐなうのは、きっと私が一生を終えた後のことでしょう。それはそれで、結構なこととは思いますが、でも、私は、自分が働けるうちに、一日も早くこの重荷を、片付けたいのです。

合唱団の歴史のなかで、これまでも何度か、オルガンの購入とか、海外演奏旅行とか、大きな支出のあるたびに、合唱団支持者の皆様にごうたえて、募金をさせていただきました。また、20 世紀から 21 世紀に入るにあたって、後援会会計を黒字にしておきたいとお伝えし、こ



第 100 回定期演奏会・創立 45 周年記念 []《マタイ受難曲》 杉並公会堂大ホール、2007 年 3 月 21 日

のときも、多くの方々のご協力で願いをかなえることができました。

今回は、もう人生の最終ラウンドに立つ私の、最後のお願いになります。団友の皆様や、ときどき公演の案内をお送りするだけの方々にも、この際、長年さまざまお送りしてきた送料とでもお考えいただき、ご協力いただけたらと存じます。

団友の方々は、もともと多くの面で私個人、合唱団の活動でご指導を得、お世話になった方で、こちらから一方的に、月報や招待状をお送りしています。また、公演案内の希望者は、定期演奏会のたびにチケット半券やアンケート用紙に「今後も知らせてほしい」とご記名くださった方々です。

目標として私が考えるのは、2007年から2012年（創立50周年）の5年間で、1000万円の募金達成です。

どんな形であれ、どんな額であれ、こころより感謝申し上げます。

もちろん楽譜・CDのお買い上げも大いに歓迎です。この際、まだの方はぜひよろしくお願いします。

私自身の健康も、またご融資いただいたままお返しできないでいる方々にも、この5年間で結着をつけるリミットであることは確かです。このように急速に上向ってきた合唱団の勢いを、この一点に集めて、5年後の創立50周年（私81歳）には、今年よりもさらに円熟した記念の年が迎えられるよう、ご支援の皆様のおかげで、心よりお待ち申し上げます。FINE

「バッハ・カンタータ 50 曲選」

<全曲完結セット>

- ・楽譜全 50 冊セット
頒価 66000 円
- ・CD 全 20 巻セット
頒価 40000 円

<各曲/各巻>

- ・楽譜各曲
頒価 1200 ~ 2100 円
- ・CD 各巻
頒価 2300 円



CD 《マタイ受難曲》日本語演奏・新盤！



去る3月21日公演の会場ライブ録音が出来上がりました。好評です。

- ・頒価 3500 円
(3枚組み、当日プログラムつき)

「50 曲選」の続編、刊行開始 !! 「バッハ・カンタータ楽譜全集」(全 192 巻)

バッハの教会カンタータ、現存全 192 曲の日本語版楽譜の刊行を開始します。

このたびはブライトコプフ社との契約がまとまり、当面4年間の出版計画(計17曲)を下記の内容ですすめることになりました。すでに「バッハ・カンタータ 50 曲選」として50曲の出版を終えていますので、残る142曲を順次、出版リストに加えていきます。

経費を抑えるため、必要部数(予約を原則として)のみを発行し、在庫を持たない方式としました。

- 2007年(1曲、第101回定期曲目)・・・BWV65
- 2008年(7曲、第102・103定期曲目)
・・・BWV67、75、102、122、169、182、191
- 2009年(4曲、第104・105定期曲目)
・・・BWV11、52、111、170
- 2010年(5曲、第106・107定期曲目)
・・・BWV17、64、85、125、199

バッハの教会カンタータは、旧バッハ全集の分類では、BWV番号の1番から200番までが数えられていましたが、後に他の作曲家の作品であることが判明したものと、断片のみの形で伝えられているものを除くと192曲になります。これらのなかには、新バッハ全集でオラトリオ(BWV11)やモテット(BWV118)と分類されたものも含まれますが、われわれの計画ではここに残すこととし、この全集完結までの間に、未知の作品が登場しないかぎりは、現存全192曲の全集となる予定です。

上記のうち、BWV65はさっそく今月、5月10日に発行されます(詳細は下欄)。購入を希望される方は、事務局までお申し込みください。限定150部です。

(頒価は、いずれも団関係者特別価格。郵便振替用紙を同封してお送りします、送料当方負担。他の楽譜・CDも同様)

カンタータ第65番《もろびとシバより来たり》

大村恵美子訳詞 ISBN4-925234-56-0

体裁は「50曲選」に準じる。A4判・本文28ページ
本体価格1500円

顕現節用、1724年1月6日初演。

編成：独唱TB、合唱、ホルン、リコーダー、オーボエダカッチャ、弦と通奏低音。

当合唱団での演奏予定：
第101回定期演奏会(本年11月17日、東銀座・中央会館ホール、T鳥海寮・B佐々木直樹・東京カンタータ室内Orch)



人間のしあわせ

大村 恵美子

昨年末、私どもの定演をよく聴いてくださる百々(どど)太郎様から、3月21日の《マタイ受難曲》演奏会がすんだら、お会いしてお話をしたいとのご要望があり、3月末、御夫妻と私との3人で、ちょうど一夜にして一斉に咲きそった満開の桜に囲まれた、芦花公園近くのレストランで、初対面が実現しました。

この日、伺ったところによると、百々氏は物理関係のお仕事をなさり、松山に単身赴任されたとき、橋本眞行さんの松山バッハ合唱団に入団、東京に帰られた後は、私たちの演奏会を来聴されるようになられました。太郎様は、道元禅師を尊敬しておられる仏教徒です。洋子夫人は、ミッションスクールの先生をしていらしたそうで、キリスト教にもご縁がなかったわけではなさそうです。

お会いするにあたって、話の糸口にでもなればと思い、最近読んだダライ・ラマ『幸福論』(2002年、角川書店)を、あらかじめ読んでいただいております。それについて、お会いする前に、太郎様から次のようなお手紙がありました。

(この方は)大した人だと感じました。宗教人も、この人や先のヨハネ・パウロ 世のような方がたくさん居てくださると、世の中もっと平和のほうに向かうのにと思いました。

この人は、仏教について直接、語ってはいませんが、3章の「ものごとを正しく見る」「ものごとが起こるには、その原因となることとがある(因果の理、縁起の理)」という話は、釈迦が説かれた仏教の根本原理でもありますし、そのあとのいくつかの章は、釈迦の最後の説法「八大人覺」に説かれた徳目に一致しております。終りのほうに述べられている、とやかに言われていても、世の中よいほうへ動いているという観方と、～ しょうではありませんかという提案は、たいそう説得力のあるものと思いました。

私も、これを読んで、ここにはほんとうに必要なことが、平易に、明かるい調子で、書かれていると思えました。「幸せになりたい、苦しみを避けたいという願いが、ほんとうにすべての人間が抱く自然な気持ちであるなら、人はだれしもその願いを実現させる権利があることとなります。」

これは、キリスト教の教えの中心、<神を愛し、自分自身を愛するよう他者をも愛する>ことと同じだと思います。そして自己の欲望のみに発し、他者を害しながらの自己実現は、結果的に自・他両者を生かさなくなるので、そうならないための、不断の訓練が必要だということが、くり返し説かれています。

お会いした当日も、日常生活のなかで、どういう時がしあわせを感じる時か、という話題になりました。洋子

様は、ごくありふれた食事を今日もおいしくいただけたと感謝できる時、また、色々なことがあった一日のあとも、夕暮れどきの一瞬の夕焼けに目をうばわれる、貴重な瞬間に心が輝くことをあげられました。

私は、ひととの関係で、自分がひとに役立っていることが確認されるのは、しあわせとも言えるけれど、自分の側からは確証が得られない、相手によっては評価がどこかでくつがえるということもあり得る(助けてもらってありがたいが、気持ちとしては迷惑でもある、とか)というようなことを話しました。

それに比べて、いちばん文句なく嬉しいのは、ほんの小さな幼児が、私の存在をまるごと喜んで近づいてくる時です。昔、隣家に小さい3人の姉妹がいて、後にみんなピアノをお教えることになりましたが、始めのころは、ただ外で出会うだけ。私を指さして、遠くからでも大声で「アーハハー」と、まるで“村一番のバカ”をはやし立てるような感じで笑うのです。何もやりとりがあるわけではないのに、出会うだけでこんなに喜ばれるなんて、私はおかしいながらも幸せでした。いつ合ってもそうなのです。私は、今でも、自分の何かを認められて気に入られるよりも、このように、自分のどこがおもしろいかわからないまま、相手に喜ばれるのが、一番のしあわせのもとだと思うのです。虚心坦懐、ありのまま立って、それが受け容れられる。こんなに天国的な関係はないと思うのです。

これがおとなの相手であっても、また大きくは国家同士の関係であっても、肚のうちを隠しあつての駆け引きでなく、あの人(国)は、いつも変わらずにこういう場合にはこういう反応をして、それをいつも裏切ることがない、というふうに信じられるような関係に立つことこそ、真の意味での「国際社会において名誉ある地位を」占めるということなのではないでしょうか。

平和運動のこととか、環境問題とか、多岐にわたるお話を、とめどなく3人で話し合いました。学生時代に、徹夜で話し合った時を思い出させるものでしたが、この年齢になって、また新しい友人を得られたこともすばらしいですね、と言って、お別れしました。

ところが、帰宅してみると、またもうひとつ驚くことが待っていました。今日の会話の中で、偶然、私が思い出した昔のお隣の3人姉妹のおひとりから、メールが届いていたのです。幼時のことをふと思い出して「ネットで探してみました」というのです。さっそく電話で確認しあい、近いうちの再会を約しました。あんなに小さかったのに、私の存在をそっくり心の中に留めてくださって、しかも29年もたって、こうやって思い出して呼びかけてくださったという、ありがたさ。

まだまだ、これからも話はつづきます。こういうわけで、人生は何十年と生き延びても、面白さにつかない、神と人、人と人との舞台なのです。春爛漫、感謝でいっぱいの日でした。FINE

2007年 今後のスケジュール

<行事予定>

下線の行事は、後援会員の参加歓迎。詳細は、後日ご案内いたします。

- 5月24日(木) ボイアーレ氏による臨時練習
(18:30 - 21:00、目白聖公会)
- 5月26日(土)・6月2日(土) 通常練習中止
(松山にて合唱リハーサルとゲネプロ)
- 6月3日(日) 松山/フライブルク交流演奏会(松山)
・《マイ受難曲》(ドイツ語、有志参加による)
(16:00 開演、松山市民会館、前売り 3500 円。チケットあり。事務局にお問い合わせください)
- 6月30日(土) 団員総会
- 7月1日(日) 創立45周年記念懇親会(次号に詳報)
(17:00 - 19:00、西新宿・Y'S、会費 5000 円)
- 7月28日(土)・8月4日(土) 特別演奏会
(世田谷中央教会・野尻湖神山教会、入場無料)
・モテット第3番《イエス よろこび》
・カンタータ第52番、第84番(いずれもソプラノ独唱カンタータ、終結コラールは合唱)
・ヴァイオリンソナタ第6番ト長調 BWV1019 より
(S: 光野孝子、Vn: 丹沢広樹、Pf: 若土規子)
- 8月2日(木) - 5日(日) 野尻湖合宿
- 8月中の練習は夏季休暇(野尻湖合宿とコンサート)
- 11月17日(土) 第101回定期演奏会(中央会館ホール)
・モテット第3番《イエス よろこび》
・カンタータ第65番《もろびと シバより来たり》
・モテット第1番《歌え 主に向かいて 新たな歌》
- 12月10日(月) クリスマス懇親会

<練習計画と曲目>

5月	ドイツ語《マイ受難曲》、モテット3番 <6.3 松山演奏会まで>
6月	<6.4 より通常通り> モテット1番、モテット3番、カンタータ65番
7月	モテット1番、モテット3番、カンタータ65番 <8.4 特別演奏会まで> <u>コラール2曲</u> *(BWV52, 84)
8月	<8月中: 通常練習は夏季休暇>
9月	モテット1番、モテット3番、カンタータ65番
10月	モテット1番、モテット3番、カンタータ65番
11月	モテット1番、モテット3番、カンタータ65番 <11.17 第101 定演まで>
12月	カンタータ67番、102番、169番、182番 <第102 定演(2008年5月、日時会場未定)>

*) コラール2曲: 夏の特別演奏会での独唱カンタータ2曲の終結コラール。BWV52《悪しきこの世よ われはなれを頼まじ》は2009年刊行予定(抜き刷りコピーを用意)。BWV84《われ足れり わが幸に》は「カンタータ50曲選」に収録。

柳元 宏史

連載: 全部おすすめ 50 曲選!! <その5>

カンタータ第68番

《み神はこの世を かく愛したまえり》

このカンタータ(初演 1725年5月21日、聖霊降臨節第2日)とにかかくお聴きいただきたい。聴き終えて、私の中から抑えることのできない喜びと、新しく生きる勇気が湧いてきたからだ。

教会の暦では、イースター(復活祭)の後、ペンテコステ(聖霊降臨節)を迎える。ペンテコステは「教会の誕生日」ともいわれている。

復活したキリストに出会った弟子たちは、日常生活に戻ると、煩悩が募り、この先どのように生きればよいのか分からず、扉をしめて引きこもっていた。その途方にくれる弟子たち一人ひとりに、主は聖霊を送る。すると弟子たちは、キリストがこの世に来た意味と、復活の出来事がどれほど希望に満ちたものを理解し、心の扉を開いて、多くの人の前に出てゆき、大胆に福音を語りはじめたのである。これが聖霊降臨の出来事である。福音を伝える教会は、聖霊の働き(神の力)によって、このように誕生したのである。

生きていくうえで、嘆きと悲しみがなくなることはない。しかし、聖霊が、引きこもっていた弟子たちを勇気づけたように、信仰によって、主が共にいてくださることに希望をもって、真実に生きることができるようになる。これが「救い」であることを、とりわけまっすぐに生きたバツハは、深く実感していたのだろう。そのことが、このカンタータの冒頭合唱 み神はこの世をかく愛したまえり み子をたもうほどに に込められているように感じる。厳粛な曲調に、あの日の弟子たちと、バツハ自身の心境が重なっているように思える。

ひきつづき、ソプラノが新緑の萌え出るように、いのち弾む調子で、主イエスが近くにいる喜びを軽やかに歌うと(第2曲・アリア)、つづくバスは、キリストがこの世に来た意味を告げ(第3曲・レチタティーヴォ)、さらにオーボエの美しい旋律に促されて、どんなに煩悩が多かろうと、主に希望をおくことで平安につながるのだと、朗々と歌う(第4曲・アリア)。

最後は、主を信じるものは、もはや絶望することはなく、信仰によって救いを得ると、バスパートにはじまる4声のフーガが次々に主題を展開し、バツハらしい変化に富んだ合唱で曲を結ぶ。

実に聴きごたえのある名曲・名演だ。ぜひ楽譜を片手に、存分に味わっていただきたい。

(やなぎもと・ひろし、団員:バス)

CDバツハ・カンタータ50曲選[第9巻]に収録。
S名古屋木実, B宇佐美桂一, 大村恵美子指揮/訳詞, 1991年録音(第69回定演)。演奏楽譜: 21